

CAFE + MUSEUM SHOP

ミュージアムショップでは、展覧会図録や関連書籍、ポストカード、静岡市美術館のオリジナルグッズなどを販売しています。併設のカフェでは、香り高いコーヒーや静岡産の紅茶などもお楽しみいただけます。



オリジナルグッズ

- ・クリアファイル ・マスキングテープ
- ・缶バッジ ・色鉛筆 ・茶アメ

※販売状況により在庫がない可能性があります

美術館からのお願い



展示作品にはお手を触れない
ようお願いします



展示室内での
撮影はご遠慮ください



作品保護のため、展示室内では
鉛筆以外の筆記用具の使用は
ご遠慮ください



展示室内では携帯電話は
マナーモードにし、
使用はご遠慮ください



カフェ以外での
飲食はご遠慮ください



ペットをお連れの方、植物を
お持ちの方は入館できません

新型コロナウイルス感染拡大防止に関するお願い



発熱、咳等の症状があるなど
体調のすぐれない場合は、
ご来館をご遠慮ください



マスクの着用をお願いします
※2歳未満のお子さんは不要



入館時の検温に
ご協力ください



他のお客様との一定の
距離の確保をお願いします



手洗い・手指の消毒を
お願いします



展示室内での
会話はご遠慮ください

※混雑緩和のため、日時指定制(web予約)を導入しています

サービス



コインロッカー／傘立て
※ご利用の際、100円硬貨が必要です。使用後に返却されます。



車いす・ベビーカー貸出
※インフォメーションにて無料で貸し出しています。



静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

静岡駅前の静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館では、三館共同事業を開催しています。

- 《電車》 JR 静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分
- 《新幹線》 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間
- 《車》 東名静岡ICより約15分
※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。
- 《空路》 富士山静岡空港より静鉄バス
(静岡エアポートライナー)で約1時間

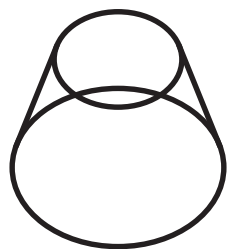
- 開 館 時 間 10:00－19:00 (展示室入場は閉館30分前まで)
- 休 館 日 月 曜 日 (祝日の場合は開館、翌日休館)
年末年始
- 観 覧 料 展覧会により異なる。中学生以下無料。
交流ゾーン、ショップ利用は無料。

◎展示替え期間中も交流ゾーンは開館しています。

夜7時まで開館

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

スケジュール 2023－2024



静岡市美術館 SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

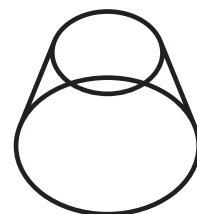


静岡市美術館は、JR静岡駅北口の「葵タワー」3階に、2010年開館しました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念としています。展覧会事業と交流事業を柱に、“街の中の広場”のような美術館を目指しています。



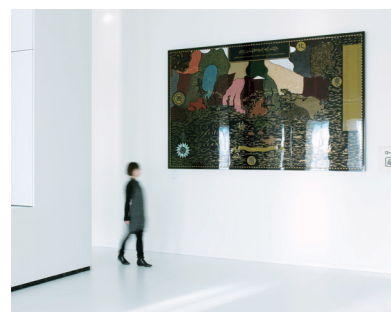
美術館ロゴマーク

ロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する
富士山をモチーフにしています。
重ねられた2つの円には、
美術館を中心とした人の輪の広がり、と、
地域と世界を結ぶイメージが
表わされています。
また、視点と奥行きの変化による
“見ることの楽しさ”
にも気付かせてくれます。



東海道五十三次ひとめ図

2012年1月、東海道を“ひとめ”で見渡せる漆工芸作品がエントランスホールに誕生しました。静岡の伝統工芸を今に伝える、蒔絵師、塗師、指物師の皆さんによる2×3mの大きな作品です。



英国キュー王立植物園

おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり

2023年4月8日(土)－6月4日(日)

20万点を超える世界最大規模のボタニカル・アート(植物画)コレクションで知られる、英国キュー王立植物園。本展では同植物園の協力のもと、18-19世紀に描かれた野菜や果物、ハーブやスパイス、お茶などの植物画をはじめ、食卓を飾るティー・セットや当時のレシピ帖ほか資料類など約200点を紹介し、新たな植物の発見が英国の食文化にもたらした影響とその発展の歴史をひも解きます。観察に基づいた精密な描写と美しさが融合する「おいしい」ボタニカル・アートの世界を、英国の食を彩った植物にまつわる物語とともに楽しみてください。

ジョゼフ・ヤコブ・リッター・フォン・ブレンク
《ピーツ》 1788-1803年頃
キュー王立植物園
©The Board of Trustees of the Royal
Botanic Gardens, Kew



さくらももこ展

2023年6月17日(土)－8月23日(水)

国民的まんが・アニメ『ちびまる子ちゃん』の作者として知られ、まんが家だけでなくエッセイスト、作詞家、脚本家と多彩な活動を展開した静岡市清水区(旧清水市)出身のさくらももこ(1965-2018)。本展では『ちびまる子ちゃん』や『COJI-COJI』、1984年のまんが家デビュー作『教えてやるんだありがたく思え!』などの原画のほか、ベストセラーのエッセイ『もものかんづめ』の手書き原稿、初展示となる関連原画や愛用品など約300点を紹介します。“描くこと”と“書くこと”を楽しみつくし、季節のうつろいや小さな日常をこよなく愛したさくらももこの全魅力をあますことなくお届けします。



『ももこのファンタジック・ワールド コジコジ』 ©さくらももこ ©さくらプロダクション

ブルターニュの光と風

2023年9月5日(火)－10月22日(日)

フランス最西端、大西洋と英仏海峡の間にせり出すブルターニュ半島。豊かな自然の中で独自の文化が育まれたこの地域は、19世紀以降、多くの画家たちを魅了してきました。本展ではフランス・カンペール美術館の所蔵品を中心に据え、紺碧の海と起伏に富んだ大地が作り出すブルターニュの景色や、ケルト文化に由来する固有の風習、この地にゆかりのある画家たちが探求した多様な芸術表現を紹介します。ブーダン、モネ、ゴーギャン、ドニラ45作家による約70点の油彩画、版画、素描をご覧ください。



アンリ・モレ 《ボン＝タヴァンの風景》 1888-89年頃 カンペール美術館
Collection du musée des beaux-arts de Quimper, France

NHK大河ドラマ特別展

どうする家康

2023年11月3日(金・祝)－12月13日(水)

戦乱の世に次々と起こる予期せぬ出来事に逃げることなく答えを出し続け、泰平の世を切り拓いた徳川家康。本展では、家康の生涯において重要なターニングポイントとなった合戦や事件の数々を、関連する絵画や文書を通してひも解くとともに、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉など家康に「どうする?」の決断を迫った人々ゆかりの資料も交えながら、誕生から歿後に東照大権現として祀られるまでの足跡を辿ります。あわせて甲冑、刀剣をはじめ、駿府で暮らした晩年に愛用した茶道具、文房具、装束なども展観し、家康の真の姿を浮き彫りにします。



重要文化財
《歯染具足(伊予札黒糸威胴丸具足)》
桃山時代(16世紀)
久能山東照宮博物館

高畑勲展 ー日本のアニメーションに遺したもの

2023年12月27日(水)－2024年3月31日(日)

1960年代から半世紀にわたって日本のアニメーションを牽引し続けた高畑勲(1935-2018)。「アルプスの少女ハイジ」や「火垂るの墓」、「かぐや姫の物語」などの監督(演出)を務め、それまで映画化は不可能とされてきた題材や新しい映像表現に次々と挑戦し、国内外の制作者にも大きな影響を与えました。本展では宮崎駿など高畑作品を支えた制作者によるレイアウトや原画、セル画、背景画とともに、高畑自身による制作ノートや絵コンテなど1300件超の膨大な作品や資料をとおして、日本のアニメーションの礎を築いたその足跡をたどります。



「火垂るの墓」セル付き背景画(©野坂昭如／新潮社、1988)

交流事業

ミュージアムショップ&カフェのあるエントランスホールや、多目的室、ワークショップ室を「交流ゾーン」と呼んでいます。ここでは様々なアートシーンの紹介や講演会、シンポジウム、コンサート、映画上映やワークショップなどを実施しています。また、展覧会ごとに学校等の団体を対象にした鑑賞教室「ミュージアム教室」も実施しています。詳しくはお問い合わせください。



鈴木康広 まばたきの葉 | 未来の待ち合わせ場所 photo / Katsuhiro Ichikawa



(上) ワークショップ室 「オープンアドリエ」のようす
(下) 多目的室 講演会のようす